

平成22年 6月 1日現在

研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18401020
 研究課題名（和文）近現代テュルク諸語文献を中心とする内陸アジア歴史資料リソースの構築
 研究課題名（英文）Building the Resource of Historical Sources on Inner Asia, centering on Modern Turkic Literatures.
 研究代表者 菅原 純（東京外国語大学・アジア言語文化研究所・研究員）
 研究者番号：30420285

研究成果の概要（和文）：当研究プロジェクトは、中国領中央アジア（新疆）において18-20世紀に作成されたテュルク諸語文献を対象として、史料研究を推進し、当該分野研究に資する書誌情報リソースの構築を試みるものである。4年間にわたる科研費の交付期間内に行った具体的な活動とその成果としては、個別研究成果に加え、(1)基本文献である現代ウイグル語雑誌のバックナンバーの網羅的収集ならびにデジタル化の推進、(2)史料学的研究を中心とする研究会の開催、(3)書誌データベースの構築と公開、(4)国内外の学会での成果報告などを実施した。

研究成果の概要（英文）：This research project aims to build bibliographical information resources on the Turkic works written in the area of Chinese Central Asia or Xinjiang in 18-20 centuries, which contributes to develop the study of regional history and study on historical sources. In the four-years term of the project, in addition to the results of individual studies, (1)collection and digitization of unique manuscript sources and rare materials written in Chaghatay and Modern Uyghur language, (2)holding series of academic meetings and workshops centering on the study of historical sources, (3)construction and publication of online bibliographical data bases and (4)presentation on the results of the project at the both international and domestic conferences and workshops, are achieved as a result of the project activities.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2007年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	2,300,000	690,000	2,990,000
総計	7,600,000	2,280,000	9,880,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：東洋史

キーワード：データベース、中央アジア、新疆ウイグル自治区、トルコ学、チャガタイ語

1. 研究開始当初の背景

|

ウイグル人をはじめ、内陸アジア地域を構成するテュルク系諸民族自身が残した現地語の諸文献は、当地域の歴史・社会・文化を研究するためのもっとも基本的な材料であるにも拘わらず、いまだ十分に活用されているとは言い難い状況にある。とりわけ 14 世紀以降から 20 世紀初頭までの長きにわたり当地域の文章語であったチャガタイ語の写本、ならびに現代語への移行期に著された様々な正書法を用いたテュルク系言語文献は、世界各地の図書館・研究機関そして民間に散在しており、それらに関する研究体制は依然遅れた段階にある。

2. 研究の目的

本研究課題は上述の現状に鑑みて、内陸アジア、とくに中国領新疆で近現代(18-20 世紀)に作成されたチャガタイ語ならびに現代 8 ウイグル語を中心とするテュルク諸語文献を(手書き写本ならびに出版物)対象として、その包括的な史料研究を推進するとともに、当該分野の発展に寄与する、オンライン・データベースならびに解題参照目録からなる文献リソースの構築を実現するものである。

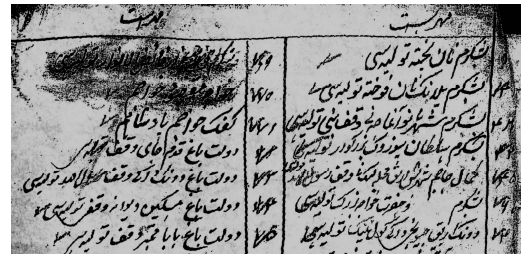
3. 研究の方法

具体的には、以下の通り 4 つのタスク(収集・研究・総合・発信)を実施する:

- (1) 近現代テュルク諸語文献の所在状況調査を実施し、その書誌情報および(特に重要なものに関しては)複写物を取得する。加えてそれら文献史料を利用した研究論文、史料校訂、史料研究、目録などの二次研究文献も可能な限り収集する。[収集]
- (2) 取得された文献資料の調査研究を推進し、特に歴史的に重要なものに関してはメンバーの共同、あるいは単独で重点的な研究を行い、論文や校訂テキストの形で発表する。[研究]
- (3) 史料研究の成果を含め、最終的には存在が確認された全文献の書誌情報、ならびに関連する二次研究文献すべての書誌・引用情報をデータベースに総合する。[総合]
- (4) データベースを基盤とした「内陸アジア歴史資料リソース」(仮称、英文)をネットワーク上に構築し、近現代テュルク諸語文献の最新の書誌データの世界的な共有を図る。[発信]

4. 研究成果

まず(1)史料文献の収集については、中国新疆ウイグル自治区で 2 回(2006, 2007)にわたり史料文献収集を実施した。これら調査の結果、省制期を中心とするイスラーム法廷文書を中心とする契約文書史料、ファトワー書式集、聖者伝写本そして『カシュガル・ワクフ文書集成』などからなる複数の個人所蔵の稀見史料の複写物が将来された。また書誌研究上の基本文献である『ブラク』『ミラス』『タリム』『新疆地方志』など総計 26 タイトルの現代ウイグル語雑誌のバックナンバー、『新疆文史資料』(現代ウイグル語版)、『新疆古典文学叢書』などの資料叢書を網羅的に収集し、そのデジタル(pdf)化をおこなった。



史料調査成果のひとつ、新発見の史料
『カシュガル・ワクフ文書集成』(冒頭目次頁、部分)



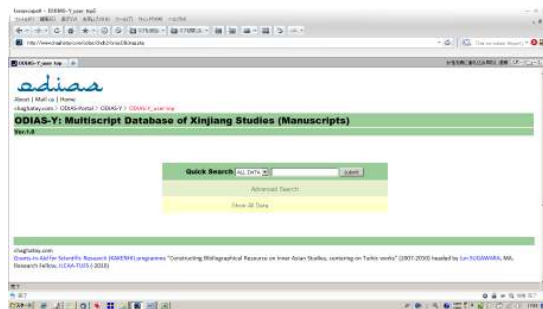
史料調査成果のひとつ、新発見の史料
共産党政権下の 1950 年に作成された新疆・カシュガル旧市街の不動産売却にかかるイスラーム法廷文書

次に(2)史料研究の推進においては前述の収集された写本史料や現代ウイグル語雑誌記事に依拠した書誌的な研究をプロジェクトメンバーが個別あるいは共同で推進し、当報告書の次項で示した書籍、論文を成果とし

て出版した。また現代ウイグル語文献の定期
講読会(東京、2006)、チャガタイ語史料文
献に関する研究会(富山・仙台、2007-2009)
を開催し、当該テーマに関する研究の深化と
成果の共有に努めた。

そして(3)書誌情報の総合については、先
行研究プロジェクトで構築した2種の書誌
データベース(odias-b/y)の情報の追加とプ
ログラムの改良、独自サーバー、ドメイン
(chaghatay.com)への移行ならびに公開を完
了させた。

当データベースのうち新疆地域由来の写
本史料データベースである odias-y は、ロシ
ア、中国、スウェーデン、ドイツ、フランス、
連合王国そして合衆国などの所蔵機関に収
められた写本文献を網羅的に収めた世界初
のユニオン・リストである。また odias-b は
新疆史に関する出版文献、記事を使用言語、
文字に関わらず登録したマルチスクリプ
ト・データベースである。両データベースと
もその性格は比類のないユニークなもので
あり、今後の当該地域研究の発展に一定の寄
与をするものと期待される。



公開・稼働中の文献データベース ODIAS(新版)
(<http://www.chaghatay.com/odias/odiasp.php>)



公開・稼働中のプロジェクト・ホームページ
(http://www.uighur.jp/project/etlabibs_wp/)

最後に(4)研究成果の発信については、前
項のデータベースならびに歴史文献の解題
参照目録を軸とする当科研ホームページを
構築公開し、上述の活動内容、成果の還元を

図っている。また毎年国内外の学会において
プロジェクトメンバーがそれぞれ個別に直
近の研究成果の報告を行うとともに、当プロ
ジェクトの広報に努めた。

以上の諸成果は概ね当研究課題の所期の
目的を達成したものと判断され、当該研究分
野の進歩に一定の貢献を為すものであると
考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

〔雑誌論文〕(計11件)

菅原純 「圣地乌帕尔-依据麻扎文书的历史
探讨」『西域研究』2009-2、83-92頁

新免康「オアシス都市ヤルカンドとイスラ
ム聖者廟」中央大学人文科学研究所編『ア
フロ・ユーラシア大陸の都市と宗教』(中央大
学人文科学研究所研究叢書50)、東京:中央
大学出版部、2010年3月、pp.145-178.

Sugawara Jun, "Tradition and Adoption:
Elements and Composition of Land-related
Contractual Documents in Provincial Xinjiang
(1884-1955)" *Studies on Xinjiang Historical
Sources in 17-20th Centuries*, Tokyo: Toyo
Bunko, 2010, pp. 120-139.

Sawada Minoru, "Three Groups of *Tadhkira-i
khwajagan*: Viewed from the Chapter on Khwaja
Afaq" *Studies on Xinjiang Historical Sources in
17-20th Centuries*, Tokyo: Toyo Bunko, 2010,
pp.9-30.

Shinmen Yasushi & Amanbek Jalilov,
"Addendum to the Turkic Translation of *Tārīkh-i
Rashīdī* by Khwāja Muhammad Sharif," *Studies
on Xinjiang Historical Sources in 17-20th
Centuries*, Tokyo: Toyo Bunko, 2010, pp. 31-56.

Sugawara Jun, Kawahara Yayoi"Shinjang we
Perghanida tépilghan mazar hujjetliri"
Bulaq 2007-3, pp.33-47.

Sugawara Jun, "Yaponiyidiki Shinjanggha
munasiwetlik bezi matériyalliri" *Turpanshunasiq
tetqiqati* 2007-1, pp.145-150.

菅原純「カシュガル地方における聖地調査」
『シルクロード学研究』28号、奈良:財団法人
奈良シルクロード博記念国際交流財団・シ
ルクロード学研究中心、2007、19-34p.

菅原純「カシュガル地方における聖地伝承」『シルクロード学研究』28号、奈良：財団法人奈良シルクロード博記念国際交流財団・シルクロード学研究センター、2007、67-78p.

澤田稔「フェルガナ盆地における聖地調査」『シルクロード学研究』28号、奈良：財団法人奈良シルクロード博記念国際交流財団・シルクロード学研究センター、2007、3-18p.

新免康・河原弥生「ブズルグ・ハーン・トラとカッタ・ケナガス村の墓廟」『シルクロード学研究』28号、奈良：財団法人奈良シルクロード博記念国際交流財団・シルクロード学研究センター、2007、79-102 p.

〔学会発表〕(計7件)

Sugawara Jun, "A Heroic Legend of "Shahidane Khotan": Genesis, and Developments of the Abdurrahman Dastani." *10th Annual Conference of the Central Eurasian Studies' Society* 2009年10月9日, Munk Centre, University of Toronto, Canada

Sugawara Jun, "Waqf Litigations at Kashghar" *9th Annual Conference of the Central Eurasian Studies' Society*, 2008年9月20日, Intercultural Center, Georgetown University, Washington DC, USA

Sugawara Jun, "Opal, a Sacred Site on the Karakoram Highway: A Historical Approach by Using the Descriptions Found in the Mazar Documents" *International Workshop "Studies on the Mazar Cultures of the Silkroad"*, 2008年8月28日, 中国新疆大学学术交流中心

Sawada Minoru, "Genealogy of Makhдум-i A'zam and Cultural Tradition of Mazars" *International Workshop "Studies on the Mazar Cultures of the Silkroad"*, 2008年8月27日, 中国新疆大学学术交流中心

Shinmen Yasushi, "Mazars in Xinjiang from a Foreigners' Perspective in the Nineteenth and the Early Twentieth Centuries" *International Workshop "Studies on the Mazar Cultures of the Silkroad"*, 2008年8月27日, 中国新疆大学学术交流中心

Sugawara Jun, "Tradition and Adoption: The Sinicization of Legal Documents in Turcic Traditional Society in Provincial Xinjiang (1884-1955)" *8th Annual Conference of Central Eurasian Studies Society*, 2007年10月21日, Washington University, Seattle, USA

Shinmen Yasushi, Sugawara Jun, "A Historical Source of the Afaqi Khwajas under Qing Rule: On Scroll Prov. 219 of the Gunnar Jarring Collection, Lund University Library, Sweden" *7th Annual Conference of Central Eurasian Studies Society*, 2006年10月2日, Michigan League, University of Michigan, MI, USA

〔図書〕(計9件)

新免康・河原弥生(共編)『フェルガナ盆地のウイグル人と越境の記憶』, 東京: NIHU プログラムイスラーム地域研究東京大学拠点, 2010年3月, 181pp.

James A. Millward, Shinmen Yasushi, Sugawara Jun(eds.) *Studies on Xinjiang Historical Sources in 17-20th Centuries*, Tokyo: Toyo Bunko, 2010, 317pp.

菅原純『現代ウイグル語小辞典』東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2009年2月、742p.

アブリズ・オルホン、菅原純『新疆およびフェルガナのマザール文書(影印)2』東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2008年、152p

ジャリロフ・アマンバク、河原弥生、新免康、澤田稔、堀直『「ターリーヒ・ラシーデイ」テュルク語訳附編の研究』東京：NIHU プログラム「イスラーム地域研究」東京大学拠点、2008年3月、372+171p.

菅原純、アイスマ・ミルスルタン『Éling, Éling !』東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2007年8月、164p.

菅原純、アイスマ・ミルスルタン『現代ウイグル語接辞索引』東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2007年8月、33p.

菅原純『現代ウイグル語語彙集(附日本語ー現代ウイグル語索引)』東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2007年8月、533p.

菅原純、河原弥生『新疆およびフェルガナのマザール文書(影印)1』東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2007年、154p

〔その他〕

ホームページ等

http://www.ughur.jp/project/etlabibs_wp/

<http://www.chaghatay.com/odias/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菅原純（東京外国語大学・アジアアフリカ言語文化研究所・研究員）
研究者番号：30420285

(2) 研究分担者

澤田稔（富山大学・人文学部・教授）
研究者番号：20215916
新免康（中央大学・文学部・教授）
研究者番号：10235781